

第五日目

師 範：聖徳太子を助けていた蘇我氏は、その後、力をふるって、天皇の地位をないがしろにするようになったということで、中大兄皇子と中臣鎌足らとが蘇我氏を倒しました。



これによって、天皇の地位が高まって、天皇中心の中央集権的な国づくりが始まりました。

6 4 5 年 大化の改新がおこる。

大切だから、覚えておこう。

翌年に改新の詔（みことのり）が出されます。

ペン太：きょうは起きています。お母さんは

「大化の改新むしご年」



と覚えたそうです。

でもぼくは別のを考えました。

「無視ご免の大化の改新」

というのはどうでしょうか。

のちの藤原氏のルーツになる中臣鎌足が「大化の改新のことを無視してはいけませんよ」と言っているという感じです。

「無視＝むし」は6 4, 「ご免」の「ご」が5で、あわせて6 4 5ということですよ。

師 範：短くて覚えやすいようだね。

先の説明で「天皇」と言ったけれど、本当はまだ「天皇」とは言わず「大王」と言っていたようです。

このことは中大兄皇子が天智天皇となり、次に天皇になる天武天皇のころに、はじめて「天皇」と言うようになり、また国の名を「日本」と言うようになったということが、最近の発掘からわかってきましたよ。

コン太君、それでは、「日本」という前は何と言っていたのでしょうか。

コン太：たしか、卑弥呼は魏の国から倭王と呼ばれていました。

だから、「倭」とか「倭国」ではないですか。



師 範：その通り。「倭」という字は中国からあてがわれた漢字です。

「小さな」「小さいもの」という意味の漢字で、中国からは見下した関係を表しています。

天武天皇が、「日本」という名を使った気持ちがわかりますね。

コン太：遣隋使のときに聖徳太子は「日出ずる国」と自分の国のことを表した、と習いましたが、少し似ているような気がします。